



テーマ 経営者・労働者から見たキャッシュレス — 先行する米中と日本の課題 — (要旨)

三浦 秀樹
(生命保険会社勤務)

1 序章〜キャッシュレスありきの新しいビジネスモデル

米国シアトルでは

アメリカ・シアトルに無人コンビニ「Amazon GO」がオープンした。レジでの精算は行わない。

中国では

中国では、コンテナ型の無人コンビニが新興企業を中心に次々とオープンしている。無人レジがモバイル決済を行う。入退店時のQRコードによる管理やRFIDといった旧来の技術により構成され、部材の調達が容易。参入障壁は低く、コストも安い。

レンタサイクルでも

中国ではレンタルサイクルも急速に整備され、すでに過当競争、淘汰が進んでいる状態。運用上の問題はあるが、日本でも東京オリンピックを控え、事業化の動きが進んでいる。

無人化のカギはキャッシュレス

共通するのは、キャッシュレス。スマートフォンを活用したモバイル決済が前提のシステム。

無人コンビニで現金決済の仕組みを入れる場合、現金の收受と釣り銭の払い出しを行うオートキャッシュャーという機器が必要となるうえ、防犯上のリスクも発生する。

レンタルサイクルは、街中で自転車を借りるという仕組み上、キャッシュレスの仕組みが必須。

2 キャッシュレスがもたらすもの

日本のタブレット・オーダー

近年、日本の飲食店でタブレット端末を用いてオーダーするシステムが増えている。顧客からのオーダー取りで省力化が図られているが、現金決済が多いことから、精算のレジ業務は必要。

レジ不要の効果

レジ業務がないことで店舗運営上の省力化。レジ業務にかかる時間の削減とレジ業務を行うために別の作業を中断する必要がなくなる。強盗や内部犯罪の撲滅といった面も有利に働く。

3 なぜ普及が進まないのか

日本のカード決済に頼れない実態

飲食店に対するサンプル調査によると、5店舗に1店舗しかクレジットカードが利用できない。

クレジットカードを導入しない理由

① 決済用機器の導入負担、② 決済手数料の負担、③ そしてカード会社からの代金振り込みが即時ではなく数週間〜1か月後であることによる資金繰りの問題。

客単価が低い飲食店においては、決済手数料が利益を圧迫、代金の振り込みのタイムラグで、資金繰りが苦しくなる。

4 キャッシュレス 労働者と経営者の言い分

タクシーでは

タクシー会社の従業員の場合、現金よりキャッシュレスの方が効率的、という声が多い。個人タクシーのドライバーは現金決済の方が利益を確保できる、という声が圧倒的だった。

スーパーでは

このほか、スーパーマーケットのレジ係を手作業で現金収受を行っている店舗も多数ある。現金の過不足は特に気を遣うため、心理的にはキャッシュレスの方が楽であるとの声が多い。

5 今後の方向性

クレジットカードの問題

クレジットカード専用の決済端末が必要なため導入コストが高額となる。カード会社からの代金の振り込みのタイムラグによる資金繰り。加盟店には割高な決済手数料を負担させることになる。

ICカードの問題

ICカードは迅速な決済という点で決済の簡素化に主眼を置かれているが、やはり専用の端末が必要。一部はスマートフォンでも可能だが、IC対応の高価なモデルに限られるため、利用のハードルは低くない。

「アリペイ」「ウィーチャットペイ」の優位性

「アリペイ」「ウィーチャットペイ」は、自分のQRコードを相手の端末のカメラで読み取り、決済を行う。スマートフォンの機種に制約がなく、安価な機種でも使用可能。加盟店（事業者）は一般的なタブレット端末だけで決済のシステムを構築可能で、導入コストは非常に安価。チャージは銀行口座からの引き落としとして、回収不能を考慮する必要がなく、決済手数料を低くなる。

究極は人手不足への対応策

少子・高齢化に伴う人手不足はさらに進む中で、より省力化を図り、かつ簡便、高付加価値のサービスには、キャッシュレスの推進は必要不可欠。

銀行の足かせ ATM

ATMの維持管理が高コスト。このままでは、銀行は高コストである現金取扱いを担い、他の決済事業者が、預金残高という数値化されたお金を低コストで自社の電子マネーに変換する、という事態になる。

最大の懸念はイノベーションへの乗り遅れ

日本における現金の信頼性、利便性が非常に高いこの状態が長く続くとキャッシュレスの推進が遅れ、省力化や新しいサービスなどのイノベーションが起きにくい。結果、国際的な競争に勝てなくなる懸念も大いにある。

キャッシュレス化の強力な推進にあたり、決済手数料の低廉化、システムの簡素化による導入コストの削減という要件は必須不可欠。この実現が、加盟店（事業者）のキャッシュレス導入の大きなモチベーションとなり、日本全体のキャッシュレスの推進につながる。

キャッシュレス化の推進を通じ、より効率的で便利なサービスが増加することにより、経済活動がより活発化することを、切に願う。（詳しくは本文 <https://goo.gl/sN8a34> をお読みください。）



執筆者紹介：

三浦 秀樹

1976年北海道生まれ。

生命保険会社にて、営業店の業務指導にたずさわる。

当財団では、第一線で活動される気鋭の執筆者に依頼し、時代を拓く提案、提言をニュースレターとして発信しています。ご意見をおよせください。財団事務局 abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

一般財団法人 未来を創る財団 : <http://www.theoutlook-foundation.org/>

© 2018 The Outlook Foundation. All rights reserved.